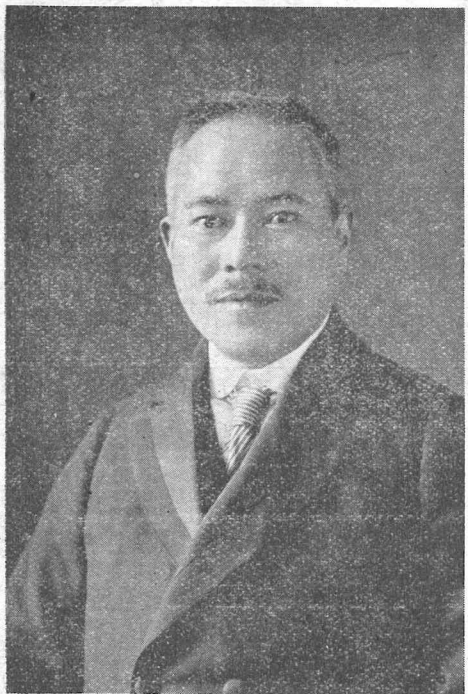


毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



和清山香 校學市田上野 會門專曲市上野 所刷印 所行發 所刷印

針塚校長先生御勇退  
後任は井上先生



影近生先長校新上井



影近生先長校前塚針

三月廿五日の東京朝日新聞信州版に「針塚校長辭表提出」の記事が出て我等は寝耳の水に驚いた。先生は既に昨年四月動一等陸彼の時に辭意を洩され我等同窓會員の熱烈なる懇望に依つて留任されてゐたのであるが今春に至つて遂に何人にも意中を示さず辭表を提出し留任運動の餘地無からしめたもので全く吃驚してしまつた。

千曲會では直ちに理事會を開き學校では教授會を開きて協議し校長先生に御留任を懇請すると共に同夜學校より井上先生、千曲會より蒲生、林、野口の三理事が上京、文部省に慰留を懇請した。然し既に手續は進行し然も後進に途を開かうと云ふ先生の美しき御意志を無にするは知何との言葉に仕方無く先生の御勇退に對する最高の優遇をお願ひして退出した。斯くて廿八日に再び教授會を開き井上教授より文部省陳情の報告があり廿一日附を以て正式に針塚校長は依願免官となられ後任は井上教授と決定したのである。尙針塚先生は當分の内上田に住居せらるゝと聞き及んでゐる。

針塚先生の御經歷

針塚先生は群馬縣前橋藩出身、明治四年の御出生で本年六十八歳、明治廿九年七月農科大學農學科を卒業、三十年六月拓殖務省屬を振出しに同技手、及横濱生絲検査所技手兼蠶業講習技手、又廿一年には文部屬として實業教育局及專門學務局勤務、三十二年には兼任高等師範學校教授、廿三年には實業學務局第一課長及第二課長、文部省圖書審査官、廿五年には文部省視學官兼文部省圖書審査官、次で明治廿九年二月には農業教育研究の爲め滿二ヶ年間米國及獨國へ留學を命ぜられ四十一年五月歸朝して盛岡高等農林學校教授、文部省視學官に同年八月上田蠶絲

現代乾繭機界ノ王座  
大和式自動輸送乾繭機

一五九八年代表型

【各種型錄贈呈】

製作發賣元  
株式會社  
大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地  
電話京橋(56)五三二〇番

營業課目  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動人絹乾燥機  
特許帶川三光式乾燥機  
特許やまご式ホソ洗い装置  
特許サンコー式濾過淨水器  
特許サンコー式廢湯吸ポンプ  
特許サンコー式高壓ポンプ  
特許サンコー式

井上先生の御經歷

井上先生は東京市出身、明治十三年の御出生で本年五十九歳、第一高等學校より專門學校創立委員を命ぜられ米澤高等工業學校校長事務取扱を経て四十三年八月十三日上田蠶絲專門學校創立(翌四十四年四月開校)せらるゝに及び同校長及文部省視學官に任ぜられ爾來今日迄勤務其の間蠶絲業同業組合中央會特別議員、長野縣蠶絲業聯合會名譽會員、同桑苗組合聯合會名譽會員、信濃教育會名譽會員及昨年信濃教育會々々に推薦され、等蠶絲業及び教育界に盡瘁された功績は數へ切れぬ程で昭和四年十二月三位に又昨年四月勳一等に昇叙された。

明治四十一年七月東京帝大農科大學卒業、東京帝國大學大學院に入學、四十一年十一月東京蠶絲講習所試験及講義囑託、四十二年九月東京帝國大學農科大學實科講師を囑託され四十二年七月蠶絲研究の爲め滿二ヶ年獨及佛國へ留學を命ぜられ大正二年六月歸朝、大正二年七月上田蠶絲專門學校教授を拜命大正六年七月農學博士の學位を授けられ、大正九年七月文部省社會教育講師、同十年東京帝大農學部講師、十一年には長野縣蠶業試驗場場長を兼ねられ、大正十四年には養蠶科長、昭和三年には九州帝大講師、六年には生徒主事、七年には教務課長、陸高等官二等、十年には教務課長、十一年には教正四位となられ現在に至つたものである。

去るに臨みて

針塚 長太郎

皆さんに長い間お世話になりました。十年を一言と申しますが...

就任挨拶

井上 柳 梧

去る三月廿四、五日の事と思ふ。東京朝日新聞に針塚校長の退官せらるゝと謂ふ記事が報せられた。...

之と申すも校内に於ては教職員各位が職務に精勵せられ指導に著々實績を挙げられ不撓の努力を傾注せられて...

爲に本分を盡くし一年一年に活動の天地を開拓して相續きて後進を導き學校の聲譽を高めて間接に學校を援助し延いて小生の立場を支援されたるの賜にして誠に感謝の至りに堪へざる次第であります。...

職廿七八年を経過したのであつた。小生以外の他の元老職員も概ね之が原因で小生と勤績を均しくした譯である。...

の際には住宅の斡旋等に就て大に先生のお世話を煩はしたものです。深く感謝の意を表する次第であります。...





上田便り

見學攻めの鐘紡工場 近代先進科學工場上田鐘紡工場の見學者は一月十二日...

幸村公の桃の木上田城址に分植

高野山には眞田幸村が櫻樓當時觀賞した赤い毛桃の名古木があるが上田中學校...

農村工業助成

小縣郡下農村ドリル工場は浦里村に次いで鹽尻、神科の二ヶ村が事業開始の準備を進めてゐるが三月十八日...

上田市助役木内氏着任

縣商工水産課主事木内權四郎氏は三月十九日着任市役所樓上で職員一同に挨拶あつた。

神戸の特産極めて好成绩

本縣規畫課では縣内特産品の縣外輸出をはかるため三月十五日より二十日まで神戸市大丸デパートに特産品の即賣展覽會を開いた結果成績極めて良好で出品二万五千點中大部分が賣切れ賣上高も九千餘圓に達した...

浅間山大爆發

久しく沈黙を守つてゐた浅間山は三月廿五日午前〇時十分一火普響と共に爆發し山麓の舊輕井澤香掛方面住民は屋外へ避難したが濃霧のため噴煙は見えず物すごい鳴動が約四分にわたりに乗り出すことになつた。

り附近一帯に降灰があつた。

氣球隊上田に来る 千葉氣球隊兵百八名は演習行軍の途次三月二十六日上田市に來り同夜市中旅館に一泊、翌日上田小學校北校庭に於て實地演習をなした。

美吉野岩鑛躍進

小牧山の美吉野炭鑛は有望性を認められ東京市日滿鑛業株式會社として今度二百五十萬圓の株式會社に躍進する事になつた。現在一日六十トン採掘を五百トン位に増産人夫も四百人位を使ふ豫定であると云ふ。

蠶絲祭執行

戦時下に迎へた十三年の蠶絲祭は三月二十八日午前十時から上田市公會堂に於て上田市並に上小蠶絲業者同盟主催の下に三百餘名參列して厳かに執行、式は若林小縣養蠶業組合長の開式の辭に始まり祭主成澤市長の祭文、瀧澤縣議、武市北信新開社長の祝辭があつて式を閉ぢ十二時から記念講演に移り上田蠶絲専門學校井上博士の絹の用途に就てと題する講演あり午後一時から祝宴あつて二時盛會裡に閉會した。

小畑中将一行慰問に

小畑中将は參謀長軍醫部長經理部長その他を同伴三月二十九日午後四時二十六分上田驛着列車で來田別所花屋ホテルに一泊三十日上山田陸軍療養所の檢閲並びに傷病兵の慰問をなした。

菅平體育研究所五万坪買収

第十二回國際オリムピック大會は先日のカイロ會に於て愈々東京開催と確定戦時下における凡ゆる障礙を排除してその實現に着々準備がすすめられてゐるが大會議場地の有力候補たる菅平の文部省體育研究所では昨年隣接地五万坪を買収競技練習用のトラックフィールドを建設する豫定で今七十三議會に豫算を計上提出し通過をみたので早速着工し今夏練習に間に合ふ様大車輪で工事を急ぐ事になつた。このトラックは豫算の關係上万全の設備は不可能であるが規模や距離では本格的なものに近づいてゐる。

蠶絲課長は三月十八日臺灣に向ひ

蠶絲課長は三月十八日臺灣に向ひ四月六日歸長の豫定であるが用件は新竹州三灣庄に新設される蠶業試験場分場の土地購入その他に關するものであり實現の曉を期待されてゐる。

釜蓋の整理減少

上田市の製絲工場に於ては釜蓋整理に基き廢棄したるもの六工場二百廿二釜に及び又器械工場の一部を改め座繰工場としたもの多く製絲業變革の歴史を上田に見るかの如き有様である。現在器械製絲六工場釜蓋一八六職工一三三三名、玉絲製絲四八工場釜蓋...

ので之が竣工の節は代表的一流選手の來訪で菅平は一層世界的名譽を博することにならう。

バス停留所四丁毎に設けガソリン節約 節約の時代に入つて上田署では五月一日實施のガソリン二割節約に備へ管内ハイヤー八十臺、トラック六十餘臺及び各バス會社路線に於ける消費節約の基礎調査を進めつゝあるがガソリン節約の矢面に立つバス関係者は四丁位置に停留所を設置技術的方面から一層節約の實績を上げやうと研究を進めてゐる。バスに於ける一回のゴーストップは優に半哩を走るエネルギーを消費してしまふと云ふので一方には發着の減少計畫も傳へられハイヤーの場合にはダットサン入替の方針を立て燃料國策の線に添つて関係者の眞剣なる對策が行はれて居る。

花の觀光祭

花の四月を飾る十七日か二十三日迄の觀光祭については各地共非常時局にふさはしい催しもの、計畫を進めてゐるが上小地方の期間中の祭典其他の催しをみると左の如くである。

長村縣社山家神社祭禮

本年は時局柄體位向上を目指し東北部小學校の對校角力計畫がある△十八日より東鹽田の國幣中社生島尾島神社御柱祭三日間△廿二日上田招魂社祭典△廿三日松平神社祭典。

臺灣に分場設置

長野縣蠶業試験場では今回暖地へ進出する事になり本縣荒井蠶絲課長は三月十八日臺灣に向ひ四月六日歸長の豫定であるが用件は新竹州三灣庄に新設される蠶業試験場分場の土地購入その他に關するものであり實現の曉を期待されてゐる。

釜蓋の整理減少

上田市の製絲工場に於ては釜蓋整理に基き廢棄したるもの六工場二百廿二釜に及び又器械工場の一部を改め座繰工場としたもの多く製絲業變革の歴史を上田に見るかの如き有様である。現在器械製絲六工場釜蓋一八六職工一三三三名、玉絲製絲四八工場釜蓋...

省バス新鹿澤溫泉乗入

瀧川眞田間上信省管バスは來る四月十五日より小原湯と新鹿澤の兩溫泉乗入運轉を開始することに決定した。従つて草津鐵道所有線の田代新鹿澤線も諒解なりさらに電車とバスの接續も計ることになつた。

上田の物産滿洲へ

上田商工會議所の物産陳列所は地方特産物の即賣だけに最近賣上高も増加し成績を示してゐるが賣品の重なるものは織物、鑛台、農美製品、干そば等特にそばは五十餘圓大連へ出たといふので會議所でも心強いと喜んでゐる。

七一職工數七一名、座繰製絲二七工場職工數二五であつて、昨年の上絲生産額は白絲六七〇九五貫金銀三百卅四萬九千九百九十四圓であり中絲七一八六貫金銀三十四萬二千二百八十五圓で前年度に比較すれば六百二十二貫の減少であるが價格は四萬八千九百三十九圓増加してゐる。數量の減少は製絲釜が廢止された關係である。尙座繰製絲は八萬八千三百二十一圓玉絲は三萬三千五百五十圓でこれまた昨年より減少して居る。

省バス新鹿澤溫泉乗入 瀧川眞田間上信省管バスは來る四月十五日より小原湯と新鹿澤の兩溫泉乗入運轉を開始することに決定した。従つて草津鐵道所有線の田代新鹿澤線も諒解なりさらに電車とバスの接續も計ることになつた。

上田飛行場主任土井少佐に決定

熊谷飛行學校上田分校主任航空大尉荒時義次氏は今回所澤飛行學校へ轉任と決定後任に同校航空少佐土井直人氏と決定した。

女車掌を採用

上信連絡省管バスは極最近まで官儀主義的な態度に非難の聲が高かつたのが、今回觀光上信國境を廣く宣傳すべく乗客に好印象をあたへ度いと四月一日から女車掌を採用しサービスを、名所舊蹟の説明までするといふから現在までの非難を一掃する事が出来るであらふと見られてゐる。

春挽き原料は豊富

長野縣蠶絲課調査による縣下春挽狀況をみると目下開始されたものが四千釜であるが一月現在の貯藏量は十八萬三千石で前年に比し二萬六千石の増となり春挽原料は豊富である。桑園の雪害 本縣蠶絲課調査による桑園雪害は合計二萬二千四百九十二町歩の金額百六十五萬一千四百四十一圓で收穫皆無のもの百八十町歩七割以上千二百五十二町歩五割以上二千四百五十九町歩三割以上四千四百四十七町歩三割以下一萬四千三百五十三町歩である。

郡下の五組合製絲春挽限り解散斷行

上小蠶絲販聯は約十萬圓の工費をもつて多條線式百釜の工場を鹽川村に開設し本年夏挽から本格製絲に入らふとしてゐるが同組合が昨年産業組合産處理機關として組織されて以來實現に邁進して來た小蠶絲組部會内の和田の長生、武石の有誠、傍陽の傍陽社等各組合製絲の營業中止を最近着々と實行に移し各組合製絲から經營明細書を提出せしめ本年春挽限り幾多苦難の歴史を持つ組合製絲を一齊に解消し從來の供備組合員を新設の蠶絲工場へ吸収すると同時に傷だらけの組合製絲は各工場毎に清算を開始し新工場への悪因縁の繼承を避ける事になつた。

二千年前の土器中之條で發掘さる

上田市中之條西澤助太郎さんが自宅前の庭を發掘中三尺位の深さの所に奇妙な石の圓が見えたので取出して見ると石に圍まれて高さ約一尺直径一尺位赤土色の土器が發見されたので之を上中へ持參鑑定を求めた所に依ると約二千年前彌生式の物で當時の住民が敷入れに使用したらしい情しいのは口が缺けてゐる事である。この様に大きい土器は珍らしく先年飛行場工事中發見されたものと同種類である。

蠶種會社社長佐藤尾七氏の後任と

蠶種株式會社社長佐藤尾七氏の後任として常田館製絲場主笠原善吉氏が就任された。

春來る菅平

彼岸のすぎた菅平高原はもはや雪の玉座ではなく輝きの失せた殘雪が黒い地表に薄くある丈でスキーは不能スキーヤーのぬいホテル其他民家は室内の整理に忙しく黒い土の中では春に萌える草の芽が息づき始めてゐる。

母校ニユース

兒玉新一氏退職 昨年四月より母校養

養科病理實驗室に助手として勤務せられた兒玉新一氏(蠶二四)は郷里鹿兒島縣の出水高等女學校教諭に榮轉される事になり三月四日付を以つて退職された。同氏は學生時代庭球部のキャプテンであり、卒業後も其の手腕は職員間第一で、同氏の熱心さで學生選手、職員同好者の誘導されたる所は實に大なるものがあつたので同氏の去つた事は同好者にとつて非常に淋しきがある。

陸軍記念日講演 三月十日の陸軍記念日は配屬將校谷中佐が校外で講演される都合上一日繰上げて九日の午後一時より二時間に亘り舊講堂に於て日露戦争當時の苦戦、經濟的缺乏、科學文化の遅れに如何に苦心したるかを話され現在長期抗戰時の心がまへを示され、全校學生及職員多數聴講し非常な感銘を受けた。

新同窓生歓迎會 三月九日午後三時より千曲會館に於て新卒業生の千曲會入會の歓迎會を備した。會は浦生理事長の挨拶にて開かれ倉澤理事が庶務の事、林理事が會計の事、須田理事が會員動靜の事山口理事が蠶絲學雜誌の事、香山理事が不在に於て倉澤理事が千曲時報の事等千曲會機構に就いて詳細な説明あり、同時に今後の努力を促し、次いで先輩の飯島正胤氏、齋藤菊雄氏、小宮山太助氏等の有益なる處世訓があり、新同窓生は新しき希望に力強きを感じ代表養蠶科の若林康弘君が謝辭を述べ最後に野口理事より閉辭があつて六時頃散會した。

校友會役員決定 昭和十三年度校友會役員は三月十日左の如く決定した。  
會長 針塚長太郎 副會長 井上柳梧  
總務部(部長)佐藤春太郎 (特別委員)窪田潤、小松忠一郎 (委員)長末方夫  
(蠶三)井上正夫(蠶三)吉田耕三(紡三)小山富二(蠶二)金子肇(蠶二)村本才登

(紡二)

文藝部(部長)浦生俊興 (特別委員)湯原諄、副田好美、體塚好作 (委員)清水英人、森三郎(以上蠶三)山岸琢治郎、板谷隆(以上紡三)飯田武門、石立輝久(以上紡三)城口俊明(蠶二)野島忠義(紡二)三宅太(紡二)

劍道部(部長)和田仙太郎 (委員)青山武(蠶三)小川典二(紡三)古平太三(紡三)關谷英一(蠶二)中村廣(紡二)宮原丈夫(紡二)  
柔道部(部長)岡徳治郎 (委員)谷澤衛(蠶三)冬泉清(紡三)木村欽一(紡三)萩原孝三(蠶二)川瀬泰廣(紡二)相澤清正(紡二)

庭球部(部長)倉澤美徳 (委員)長谷川政雄(蠶三)南木嘉一(紡三)鷹取稔(紡三)楠八重幸男(蠶二)榎政共(紡二)渡邊亮一(紡二)  
弓道部(部長)内田浩 (委員)太田光(蠶三)中屋正仁(紡三)近藤士郎(紡三)伊藤嘉三郎(蠶二)中川力男(紡二)中村登一郎(紡二)

山岳部(部長)山口定次郎 (特別委員)小林尚一、宮坂收 (委員)小林茂(蠶三)武井顯太郎(紡三)柴田利男(紡三)北村元三郎(蠶二)岡田廣太(紡二)伊藤正義(紡二)  
辯論部(部長)香山清和 (委員)土屋久雄(蠶三)富永恭一(紡三)淺井清(紡三)加子三郎(蠶二)河野英記(紡二)川合久午(紡二)

野球部(部長)野口新太郎 (委員)長澤得榮(蠶三)黒川重壽(紡三)鶴岡要三(紡三)柳澤一郎(蠶二)諏訪喜久雄(紡二)相原忠一郎(紡二)  
競技部(部長)志賀章雄 (委員)西川正夫(蠶三)平子榮作(紡三)飯田省三(紡三)神崎聖徳(蠶二)海野輝男(紡二)白川孝治(紡二)  
卓球部(部長)荻原清治 (委員)齋藤重利(蠶三)石西正美(紡三)下田統夫(紡三)竹下清(蠶二)田代毅(紡二)高岡米治

(蠶二)

職球部(部長)古谷榮藏 (委員)目崎武美(蠶三)西井茂雄(紡二)西谷剛一(紡三)福田六郎(蠶二)姜鎮洪(紡二)井上晴晋(紡二)

評議員 大瀧昭太郎、阿形昭司、石倉新十郎、谷弘、遠藤保太郎、佐藤利一、原田親雄、林貞三、行元自忍、依田啓藏、和田主計  
職員 大瀧昭太郎、阿形昭司、石倉新十郎、谷弘、遠藤保太郎、佐藤利一、原田親雄、林貞三、行元自忍、依田啓藏、和田主計

職員の役員異動は辯論部長金子英雄氏が逝去されたので香山清和氏が新任され、競技部長廣川正治氏が辭されて志賀章雄氏が新任され總務部特別委員茅野功氏、文藝部特別委員鷹野誠一氏が辭されて副田好美氏が鷹野氏の代りに新任され、亦行元自忍氏が評議員に新任された事である。更に會長針塚長太郎氏辭任により多少異動あるものと思はれる。

職談會例會 三月十一日午後四時より千曲會館に於て談話會例會を開備した。演題、談話者は次の如し  
一、家蠶異常形卵の形態學的研究に就て(紹介) 鈴木俊夫  
學生に服裝訓令出る 今事變に依る國民精神強調に影響された譯でもあるまいが母校では従來比較的等閑視されてきた學生服裝に對し之を刷新する事となり三月十二日附學生課より左の訓令を出し四月一日より實施する事となつた。

一、制服制着用する事  
一、靴は黒革編上靴とす。但し短靴を有するものは教練其他必要の場合の外は許可す。  
一、長髪を禁止し丸刈とす。但し大禿頭及び第三學年三學期に於ては之を許可す。  
以上の内長髪を刈る事は學生にとつて相當な犠牲を惜しかつた様である。靴を垂れると云ふ意味で針塚校長先生、井上先生阿形先生、林先生、行元先生、荻原先生志賀先生等が學生に率先してザンギリ頭となられ今後先生間にも續出の模倣である。

法發布五十年號は三月十五日に發刊され

た。菊判一四三頁で校長先生の「東洋平和の礎石」小泉講師の「國債の發行と其の消化に就て」の説苑の外學生の懸賞論文、多數の文苑が盛られてゐる。例により支會長の手元へは一部宛送附された筈である。

故中島健爾君村葬 小縣郡鹽尻村出身で母校養蠶科學生であつた中島健爾君は曩に應召し北支戰場に於て名譽の戦死を遂げられたが、三月十七日鹽尻村に於て村葬が行はれ母校から校長以下職員學生百餘名參列心からの弔意を表した。英靈の市葬に參列 三月十七日當市の應召者にして北支に於て名譽の戦死を遂げられた四英靈の市葬が市小學校北校に於て行はれ本校職員、學生多數が參列した。

鷹野誠一助教退職 昭和六年以來母校製蠶科に勤務本年二月助教となられた鷹野誠一氏(紡一七)は三月十八日付を以つて退職され滿洲國立熊岳城農事試験場に榮轉され滿洲蠶絲業の振興發展に盡力される事になつて廿一日多數の見送りを受けて上田を發たれた。同氏が教職養成科に無くてはならぬ職員として亦林教授の御研究等に盡された力量と最新の鋭氣とを以てすれば必ずや目覚ましき發展を見ること、信ずる。尙本時報にも編輯部の一人として種々御骨折下された事に對して御禮申上ぐる次第である。

入學試験 本年度入學試験は三月二十日上田、東京、名古屋、京都、岡山、福岡の六ヶ所に於て執行され、教職養成科は二十六日本校に於て執行された。志願者は十五日締切で養蠶科一六三名、製絲科二八三名、絹紡織科二六一名、合計七〇七名で昨年の五四二名に比し一六六名の激増振りを示した。二十九日の教授會に於て養蠶科四一名、製絲科四一名、絹紡織科三十名の入學を許可した。教職養成科では二五名(昨年は十九名)の志願者の中から十八名(昨年は十四名)の入學を

許した。入學許可者氏名は取消、補缺もあるので來月號に掲載する事とする。試験問題は別記の通りである。  
蒲生教授御講演 蒲生教授には三月二十一日京都府の新綾部製絲株式會社董事の指導員講習會席上に於て「育蠶法の理論と實際」に就て、又三十日には仙臺市縣立農學校講堂に於ける宮城縣養蠶技術員講習會席上で「桑葉の品質と蠶兒飼育」に就て講演された。

校長先生より記念品を頂く 勸一等叙

勸記念として針塚校長先生より三月三十日全校職員借入全部に一枚宛頂戴した。同枚は本校紡織科製蠶の縮緬に赤と緑地に金粉を散らし飛翔せる鶴を畫き下部に白抜きで校長自筆にて謹呈、叙勸記念、天恩海嶽及微臣、豈敢頭瞻爲逸民、休問殘軀奉公事、常懷葵藿向陽心、敬記、長と書かれたる見事なものである。

柴田尚氏退職 昭和十年四月本校物理學教室に業手として入られ翌十一年十一月副手に昇格されて勤務してゐた柴田尚氏は母校紡織科受験の爲め三月廿一日附退職された。

體塚好作氏陸軍少尉となる 母校生理實驗室勤務副手體塚好作氏(蠶二二)は昭和十年十二月から翌年十一月まで金澤軍兵第九聯隊に兵役を勤められたが今回三月廿一日付を以つて陸軍軍兵少尉に任ぜられた。時節柄誠に御目出度きことである。

市原政治氏新任 本年三月養蠶科卒業の市原政治氏は昨年十一月茅野功氏の退職後中澤臨時副手によつて引繼がれてゐた養蠶科遺傳學教室に副手として勤務される事となり三月廿一日就任された。

鈴木俊夫氏退職 昨年四月より母校養蠶科蠶種部に副手として勤務せられてゐた鈴木俊夫氏(蠶二四)は郷里新潟縣の柏崎高等女學校教諭に榮轉される事となり三月三十一日付を以て退職された。御奮勵を祈る次第である。

第廿五回卒業證書授與式

三月十五日午前十一時より母校講堂に於て第廿五回卒業證書授與式が挙...

文部大臣祝辭

卒業生諸子、諸子は志を立て、本校に學び、多年奮闘の功立からず本日茲に卒業の榮譽を荷ひ...

祝辭があり引続き祝辭の披露、在校生代表南木嘉一君(長野)の答辭、卒業生代表若林康弘君(長野)の答辭...

長野縣知事祝辭

本日所屬の一端を申述べますことは私の欣幸とする所でありませぬ...

卒業生修業者氏名

- 市川誠司(山形) 伊比野寛(長野) 佐藤三雄(長野) 清水恒三(長野) 武田久一(長野) 中島俊三(長野)...

卒業生修業者氏名

- 吉川啓人(福井) 阿久津伊平(鹿兒島) 伊藤二男(長野) 大野浩三(長野) 小川龍三(長野) 中田充利(長野)...

卒業生修業者氏名

- 赤沼まさし(長野) 大浦廣子(長野) 小井玉枝(長野) 土井道子(長野) 宮崎美智子(長野) 山崎久恵(長野)...

卒業生修業者氏名

- 青帝駕を廻らして彌生の候を迎ふ。寒風薄らきたり。と雖も名残の雪四方に消す。しかりと雖も春陽時を賑やかに...

卒業生修業者氏名

- 説く者あり。果して然らば蠶業没落せむとす。蠶業の如く多難なり。云々...





歌會友々校學門專絲蠶田上

Musical score for '歌會友々校學門專絲蠶田上' with lyrics and musical notation. Includes tempo markings like 'Allegretto' and 'Moderato'.

待望久しきレコード成る

待望絶えて久しき校歌のレコードが漸く完成致しました。頒布期日は四月二十日であります。製作所は耐久力の強いこと...

中野忠晴氏を煩はしました。音譜及歌詞は左端参照。針塚校長の御話に就いて、最初の計畫は、半面を用いて先生独自の處生訓を、例の名句調、名詞子で吹き込んで戴き、常に先生に咫尺するの肝銘に浴さんと致したのであります。...

- 一、一〇〇円 吹込手数料
吹込室使用料其他直接會社の収入となるもの
二、七五、〇〇 編曲料並に指揮料
(奥山氏)奥山氏ならざる時は約五〇圓
三、五〇、〇〇 中野忠晴氏吹込料
四、三〇、〇〇 校歌吹込料
六名分一名五圓宛
五、一〇五、〇〇 樂手十五人分
校歌六名會歌九名一名七圓宛
六、五〇、〇〇 諸雜費
七、九〇、〇〇 盤六百枚代
一枚一圓五錢(税金を含む)
計千三百拾圓
即ち一枚當り約二圓十九錢
經費としては此の外、會歌新作に百圓、運賃、荷造費等も要するわけでありまして、現コロンビア一枚代金一圓六十五錢の料金では頒布することが出来ないのて...

叙任辭令

- 母校之部
叙正五位 金子英雄
叙五位 金子英雄
上田蠶絲專門學校教授 金子英雄
四級停下賜(以上二月二十四日)
故上田蠶絲專門學校教授叙五位 金子英雄
特旨ヲ以テ位一級進陞セララル(三月二日)
叙七位勳八等 都筑貞吉
叙勳七等授瑞寶章(三月九日)
三月二十八日
依願免本官 鷹野誠一
三月三十日
叙五位 副手 柴田 尙
三月三十一日
叙五位 副手ヲ免ス 鈴木俊夫
叙五位 依り臨時副手ヲ免ス 中澤 二郎
叙五位 依り臨時副手ヲ免ス 市原 政治
副手ヲ命ス 臨時副手
養蠶科勤務ヲ命ス 井上 柳 梧
教授正四位勳三等 任上田蠶絲專門學校校長
叙高等官二等 賜三級俸
上田蠶絲專門學校校長 針塚長太郎
依願免本官
舊職員之部
公立實業學校教諭 宮島徳一郎
富山縣立上市農學校教諭ニ補ス(三月三十一日)
卒業生之部
叙從七位(二月一日) 尾見 祐八
靜岡縣農林技師ニ任ス 玉木 勝 彰
地方農林技師ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セララル
靜岡縣農林技師ニ補ス
叙勳六等授瑞寶章 從五位 矢澤茂登一
地方農林技師ニ任ス 天野 武 良
高等官七等ヲ以テ待遇セララル
德島縣農林技師ニ補ス(以上三月九日)
德島縣農林技師ニ補ス(以上三月九日)

御 換 抄

今般滿鐵經營の試験研究機關の滿洲國への全面的移讓に伴ひ吾々の勤務先、滿鐵農事試驗場熊岳城分場はその儘、滿洲國立熊岳城農事試驗場改稱、引續き國內産業開發のための基礎的部門を擔當することに決定致しました。倍舊の御指導御鞭撻の榮に浴し度、先は右御依頼旁々御換抄まで。 敬白
四月一日
滿洲國立熊岳城農事試驗場
池田 正 五 郎
岡 卓 郎
大 山 融
(方家山領蠶場在勤)
鷹 野 誠 一
藤 田 喜 子
(五十音順)
各位



蠶絲學雜誌第十卷第三號及第四號內容

第三號內容

- 一、硫酸液に依る稚蠶用桑葉位の判定方法に就て... 木内茂雄
二、蠶頭より分離せる Kommea Sp. に就て... 眞木元
三、赤痢病菌の生理に就て... 眞木元
四、赤痢病菌の蠶組に對する寄生性... 眞木元

第四號內容

- 一、家蠶の營養と卵との關係... 山口定次郎
二、氣門閉鎖障害及片側絹絲腺抽出蠶繭の形狀及太さ... 萩原清治
三、柞蠶の微粒子検査方法改善に關する研究... 池田正五郎
四、柞蠶の微粒子検査方法改善に關する研究... 池田正五郎
五、柞蠶の微粒子検査法改善に關する研究... 池田正五郎

報文

- 一、赤痢病菌の生理分化に就て... 眞木元
二、赤痢再生曲線の研究... 眞木元
三、摘梢、摘葉に依る再生全芽並に母枝條葉の粉末比重の變化... 眞木元
四、蒸葉法に依る家蠶蠶組驅除に關する試験... 眞木元
五、繭絲の色澤の研究(第一報)黃繭絲の色相に於て... 眞木元

出征會員慰問資金募集

出征會員慰問資金募集致します。本紙十二月號代議員會議事録並に同封の趣意書御高覽の上奮つて御献金賜はらんことを御願ひ致します。 上田蠶絲專門學校同窓會統後會

本會記事

本會日誌

三月九日 新入會員歡迎會開催す。
三月十二日 入學試験官出張に付關係支會へ依頼狀發送す。
三月十三日 神奈川縣蠶業試驗場長福田衷二氏御令息の村葬執行せらる。電報にて弔意を表せり。

會費領收

昭利十二年度會費金四圓也
平石兵衛(蠶士)北條五郎右衛門(蠶士)
村田一由(蠶夫)加藤省三(蠶夫)
本居高行(蠶士)山崎修也(蠶士)
瀧澤啓四郎(蠶士)征矢克郎(蠶士)
山寺豊一(蠶士)佐藤一郎(蠶士)
昭利八年度會費及蠶絲學雜誌代
金五圓也
未納會費金四圓也
齊藤利雄(蠶士)
昭利十三年度會費
金四圓也
上田 實(蠶士)
一時金五拾圓完納者
三原 孫藏(蠶士) 小島武明(蠶士)
金井忠義(蠶士) 野村英夫(蠶士)
入會金完納者
市川信二(蠶士) 伊比 寛(蠶士)
宇田哲郎(蠶士) 兒玉貫八(蠶士)
内藤康三(蠶士) 中島俊秋(蠶士)
中西 全(蠶士) 中村 繁(蠶士)
松吉博隆(蠶士) 矢野 進(蠶士)
三原 孫藏(蠶士) 吉川啓人(蠶士)
上田 實(蠶士) 小島武明(蠶士)
野村英夫(蠶士) 長谷川敏文(蠶士)
内金拾圓也 吉瀬重正(蠶士)

統後資金寄附者

金五圓也 唐澤 正平
金貳圓也 竹村中和、竹内健二
高木三治、古東幹太
金壹圓也 新井宇之輔、榎村忠義
市川 敏三、神津治郎兵衛、小林みよ
吉田隆雄
右小計金拾九圓也
累計金六百五拾貳圓五拾錢也

滿支産業調査會

千曲會滿支産業調査會は本邦の現時局並に本邦蠶絲業の現狀に鑑み、主として支那に於ける蠶絲業の過去、現在の狀勢を明確に認識し之が將來を觀測考察し且日本蠶絲業は之に對して如何なる態度を保持すべきに就き蠶絲業の指導的地位に立つ吾人は、徒に衆愚の輿論に動かされざる基礎的確信を得ん爲次のプログラムで討論研究會を開出した。終始會員各位の眞剣にして熱烈なる意見の發表、討論があり、種々な點に於て得る所甚大なるものがあった。出席四十數名に達し豫想外の盛會であつた。

轉任御挨拶

拜啓時下陽春之候愈々御健勝之段奉賀候者小生儀長野縣蠶業試驗場大賀田支場在勤中は公私格別御懇情を辱ふし洵に難有奉命候に就ては今後共宜敷御指導御鞭撻度奉懇願候上御挨拶申述度如斯御座候 敬具
昭利十三年四月 皆川 二郎

轉任御挨拶

拜啓時下春暖の候益々御清祥之段奉賀候者私儀蠶絲試驗場統後會支場在勤中は公私格別御懇情を辱ふし洵に難有奉命候に就ては今後共宜敷御指導御鞭撻度奉懇願候上御挨拶申述度如斯御座候 敬具
昭利十三年四月 松本市四ツ谷 農林省蠶絲試驗場松本支場 若林 爲夫

支會通信

滿洲千曲會記事

序 言 燕

由來滿洲千曲會には栗栖超と云ふ筆達者な男が居て總會記事なんでもは御茶の子、お蔭様で吾々ワイ、ワイ連中は當日は只モウ、矢張羅にワイ、ワイ、ガ！ガ！云つてれば良かった。

決めたか？つてなことは一ヶ月位すると適當に纏めた幹事からの報告があるし千曲會の時報を見れば更に詳しく譯るに云つたところをどうした記事や、滿洲に限つた譯でないが總會記事のやうなものを有難がつて精讀して居ると云ふ意味ぢやない。この點編輯者の誤解がなければ幸ひ。

ところで今年には違ふ。それは栗栖超が何かの都合で缺席し湯川會長からお前書けと云ふ命令が出たからだ。だが困つたことに筆者はこの記事を書く心意で會に出た居たのではないから何うにも書きやうは無いし少々御断りしたのだけれども御許しがなく結局「勝手なこと」で良いから書けと云ふので筆を把つて見たまで筆者の責任は軽い譯。

こゝまでは約一ヶ月前に書いた文章、この後は小生の所謂勝手なことを書き飛ばしたところ内地は勿論各地の千曲會のやり方が成つてないらしい、千曲會支會の記事大部分が地方の料亭や女の吹聴ばかりが主で讀むに堪へない、寄書も度重なる鼻につくものと云つた名説に續いて居るのだけれども名説は名説であつても御時世には受け入れられさうも無いので全部割愛して以下に書き改めた文章。この心境の變化を褒めて呉れる友人のありや無しやと此處で少なからず筆が盡る。

總會記事 ○今年度滿洲千曲會の開催は例によつて舊の正月、但し今年は一日繰上げて晦日の晩、場所は奉天の繁華街。

今更に舊の正月と云ふのが内地の人達には耳新しいのだらうと考へるがこれは今以つて舊曆を用ひて居る滿人の習慣から會員諸君の勤務先もこの古いお正月に御休みの多いため、内地の御勤人には御氣毒のやうな例へば會員中湯川サ、濱サン、本間サン以下の滿洲國の御役人様達は新舊二度の御正月休み。イヤ

筆者さへもこれは羨ましい限り、それから場所の奉天と云ふのも大体会員の散在して居る中心と云ふのでこれも数年來變更なし。

町名までは書かないとしてもその邊りは日鮮満色とりどりの美しいものがチラホラすると云つた街のさなかな。

斯ふした街の雰圍氣のなかに美しい人の前も構はず蜂の佃煮、蜂の子と云つた御馳走を頬張ると云ふのも上田の空を懐しむ、信濃の國の思出を偲ぶ若人の心意氣いや感傷である。

集まつた面々は湯川會長はじめ多分十八名。一番遠くから来たのが例によつて錦州省北票からの清水兄、一番北から来たのは新京の濱兄、本間(茂)兄、一番の山奥(？)から来たのは西豊の湯川、本間(國)、杉浦の諸兄、一番に日本に近いところからは安東の岡崎、上兼、滿鐵組から池田、岡、大山、近くから水野、益松、小松、坂田、本居、垣内の諸兄に若き麗人藤田、山崎の二嬢、精しいことは支會長より送附の寫眞が幸ひに時報に登載せられた際は御心置なく御覽願ひ度い。

序ながら寫眞の背景は誰かモノしたやうな淺間山の心意。この山の下で當日、會の名譽顧問に推戴の本間氏の岳父の手打蕎麥に舌鼓を打つた次第、緋の毛氈で紅手繰で……

童心、稚氣、美しいの會合ではあつた。ところで肝腎の協賛事項は既に別途報告された筈の滿洲北支産業研究会に對する註文、前記の本間兄の岳父の顧問推戴副會長制の決定から濱兄の就任、茲に新春早々内地に歸つた三浦重雄兄の名譽會員推薦と云つた事項。

上記の協賛中「滿洲のことは滿洲千曲會で」と云ふ若い人達の烈々たる氣魄を示されたことは頼もしく感ぜられた。寒夜星凍る頃一同それらの宿に引上げたのであるが濱、本間(弟)の御同伴組を除き殆ど全部が「ホービル、ホテル」と云ふのに陣取つて居り翌日廊下のアチラコチラでヤヤーは居れ臭い再會であつた。このホテルは奉天第一——第一等では無い——の大ホテルで室數二〇〇餘は無い——の大ホテルで室數二〇〇餘は無い——の部屋に一夜を語り明し、大の男のスコヤ連中が御粗末な部屋に轉々反側した等このことが翌朝知れたこと、その山崎、藤田の二嬢が誰かダンス、ホールを案内させて夢の國に遊んだやうだと云ふことこれこそ夢見て居るやうな感懐を洩したこ

位、それ以外にも愉快なことはあつたらうけれども小生の眼には映らないと云ふ譯で御報告の術はない。

報告し得ることは以上で盡きるが何にしも吾々の仲間が何れも若い烈々の意氣に燃へた若人揃ひだと云ふことは頼もしい限りである。と同時に各々のメンバーが何れもその途のハイオナーヤとしての氣魄を胸に藏して或る者は命を的のある者は實驗室裡に閉じこもつて各々の責務を完全に遂行して居ることの悦びは盡きない。

湯川會長は曰ふ。吾々は來滿以來捨石主義と云ふものをモットーとして進んで来た。幸ひにそれが實を結んで四十名に餘る會員を得た。今日以後もこの捨石主義は放棄するべきではない。益々この精神を徹底させて行き度い。

今後は滿洲千曲會は發展するであらう然し發展させるがためには眞の意味の人材の來滿が前提とされねばならない。

過去に於て一内地に於て行詰つたら滿洲へも行け」と云ふ考へがあつた。今でも多少はある。

「滿洲向き」と云ふことは或る意味で「暴れん坊」とシノニムであつたこともある。今でも多少はある。

それ果して良いか。今日統制主義に基く産業開發五ヶ年計畫の樹立は滿洲が却つて母國日本をリードして居る貌にある。この際こそ「滿洲向人材」に再検討を加ふべきではないか！

鷹野誠一氏歡送の言葉

在東京 生 井

三月二十一日朝大宮の片倉に居る望月、石井兩君の連名にて、吾等の鷹野助教は突然滿洲國熊岳城農事試験場(滿鐵)に榮轉せられ、今夕六時五十八分上野驛着同夜十時東京驛發身躍任地に就かるゝとの通知に接す。餘りの突然さに一瞬事の眞偽を疑ふたが、何しろ發信人が歴たる人物にて然も連名で来たことだから、萬

人人物に於てもあるまいと納得し、斷然！彼氏將來の大成功を祈ることにした。時恰も陽春！二日續きの休日に漸く日頃の勞苦を忘れ且は日頃の憤懣を春の野にぶちまけて来たすが、しい朝だつたのである。

思へば吾々のクラスも、學校を出て既に九年、何んとか明るい前途の陽の目を拜まねばならぬと全きやり切れんのです。が然し此處に鷹野誠一君、最近母校助教に榮進せられたるの報を、千曲時報にて知り、同期生一同君の爲其の喜びを共にしたばかり然も、其の喜びの消えぬ間に又々今回の榮轉の報に接したわけだつた。

石井、望月兩君が通報の勞を取られて、斷然東京に集つた者九名鳥隆之助君、最近めき、重役タイプが身に付いて、一寸俸さうに成つて来た、之れが小生學

校出てから初めて顔合せだつたかも知れぬ。次が埼玉縣の蒲根に居る小口勝三君、小柄だがきびしい態度で現れ、次いで大宮片倉で御苦勞されて居る望月石井の兩君、其の手腕は夙に吾々に聞えて居るところ。次が横濱の絲織からは手

密なる交渉を持つて居るから屢々顔を合せて居るが、次が小生と同様東京連の瀧澤啓四郎君で相變らずの生井を加へて此處に九名上野驛に参集した。首を長くして待つこと暫し、仲々主賓鷹野君現れ一寸氣を揉む。誰かが漸く捜し當てたが分らぬの道理、寫眞に見られる様な意外に立派な男振りになつて居たからだ。其れから吾々の外にも綺麗どころ數名の出迎が混じつて居た。

邊報告から初つた。然る處同氏は未だ前途洋々たる獨身青年學徒だつたことを確める事が出来た。で話は直ちに彼氏のベター、ハーフを直ぐ後から送り届け度いとの動議が出る。之に對しては誰も異論の無かつたことは勿論だつた。それで同伴の親戚の方々にも吾々の意のある所をくれぐれも御願するも共に、之の歡送の言葉や眼を通した同窓各位にも御願して氣持から、特に此れを此處に強調して記した次第である。

話は次から次へと續いたが何せ時間制限ある彼氏の体だから九時には、此の夕の記念として相變らずの否、萩野君だけは一寸立派な口髭を野へられて、一同中最も變つた方かも知れぬ顔の記念撮りしたのが御覽の通りだ。

十時の發車少し前、東京驛に鷹野氏を送り一同同氏の壯途を送るべく、今晚ばかりは無邪氣に(實は皆んな二三人の子供を持つた親父共だつたが)然し眞に吾等の友の成功を祈る氣持で愛國行進曲の歌を高らかに歌つてやつた。知らず！同氏の感激した眼に何かしら光るものゝあつたことを。

最後に埼玉縣、神奈川縣等の遠隔の地から懇々同君の爲め東京まで來られ、然も遅くなる歸路を心に掛けられず歡送して頂いた友人達に對し、深く感謝するも共に眞に無盡な言葉で之の文を書いた自分の責任を、日頃の交誼に依り御赦し願へるものと信じて、鷹野誠一君の壯途を送る言葉とした次第である。

(三月廿一日記) (寫眞右より小口勝三、手島孝一、生井精一、中木武、矢島隆之助、鷹野誠一、望月太一、石井公男、萩野喜次、瀧澤啓四郎の諸氏)



(寫眞右より小口勝三、手島孝一、生井精一、中木武、矢島隆之助、鷹野誠一、望月太一、石井公男、萩野喜次、瀧澤啓四郎の諸氏)



加美好男君を歐米に送る

神戸 岩 濤 生

最近商工省の音頭取りも勇ましく愛國...

之より先き確か、二月の末頃だつたと...

其の節は再會を約して無事別れたが、...

さんめづらしく興に乗つて、御機嫌斜...

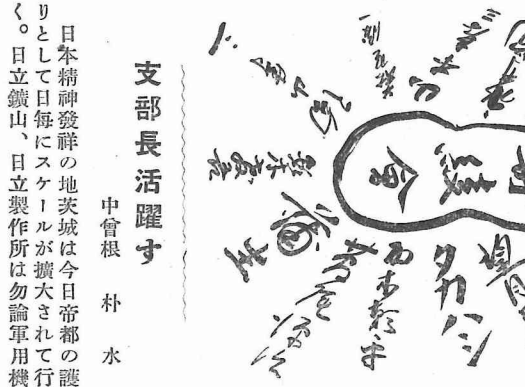
三月三十一日は来た。加美さんに乗す...

三月三十一日は来た。加美さんに乗す...



加美君の送る 兵庫千曲會 三月十六日

龜山から白澤君、大阪から久保田、立岩...



浦生先生を綾部に迎へて 望月 藤夫

つ摘みつ騒ぐ間に大きな汽笛の聲に船は...



〇〇隊在營同窓の懇親會 陸軍省

故なき哉武の神鹿馬大神宮は此の地に...



支部長活躍す 中曾根 朴 水

日本精神發祥の地茨城は今日帝都の護...



應召家族訪問に對する禮狀

おくれなげながら御禮申上ます。御一同様(宜しく願上ます。かしこ。 (三月七日、同窓會宛)

橋本博氏夫人 よし江氏より

昨日わざわざお出で頂きました節は失禮申しあげました。何時も御手厚な慰問袋を賜りまして又この度は御節重なる御慰問に預りまして心から有難く厚く御禮申上げます。早速戦地の主人にも申傳へましてございませう。さぞかし遙かの地より同窓會各位様の御芳情のほど尋う感泣いたしませうと存じます。末ながら何卒皆々様におよろしく御傳聲の程願ひ上げます。右書面に於て失禮ながら御禮申上げます。(二月廿五日、同窓會宛)

中澤嘉人君(業手) 嚴文嘉源太氏より

時下春暖の候愈々御清祥の段奉慶賀候陳者愚息嘉人儀出征以來種々御配慮に預り難く御厚禮申上候。此度は又遠路の處御慰問を頂き且又御丁寧なる御慰問金迄頂戴仕り御芳志の程難有深謝候。愈々御國重大の折柄任務又重且大に有之候處幸ひ彼の地に皇國の一員として活動を得候事は此上なき名譽の極にて備に御一同様御後援の賜と厚く御禮申上候。只管御聖恩に酬ひ奉る様日夜祈念致し居る次第に御座候。何卒今後共御援授御鞭撻の程備に御願申上候。先は御禮迄申上度如折御座候。(三月三日、同窓會宛)

藤澤喜一郎氏夫人 武代氏より

春とは名のみで寒さ未ださめやらす火邊はなれ兼ねて居ります折から皆々様御變りも無く御喜び申上ます。學期末にて何かと御多忙に入せられます事と御察し申上ます。先頃は諸先生様方々々々御尋ね下さいまして有難く存上ます。その節は御丁寧な御見舞を賜りまして誠に有難く御禮申上ます。御陰様にて主人も元氣にて任務に居る様子で御座います。故他事ながら御休心下さいませ。先は

岡宮辰夫君(學生) 嚴文常藏氏より

春色相備し候處校長先生始め職員御一同様には益々御健勝に渡らせられ御喜び申上候。此度は學校及び同窓會より御懇篤な御見舞を頂戴いたし誠に有難く謹んで御禮申上候。右御禮迄。(三月十一日、同窓會宛)

小林重男氏より

漸く春めき江南の地にも梅花咲きほころ時節と相成候。先生には益々御清榮の段奉大賀候。扱この度は學年末御多忙中にも不拘千曲會校友代表者に於かせられてはわざ／＼廣真町岩崎方に寄寓の拙家族御來訪御節重なる御慰問の御言葉と多大の御芳志とを賜はり候由有難く厚く御禮申上候。何卒會員諸賢によるしく御風聲下され度御願申上候。上海は二月下旬より三月上旬に掛け非常に暖く異狀氣候を呈しその後急轉直下七、八、九日の三日間は降雪と相成冬の再現と思はれ候も本日頃より又春の如き氣候と相成候。十日の陸軍記念日は寒風凍る中に上海市政府前にて觀兵式舉行數萬の派遣軍の分列閱兵が行はれ壯觀を呈し候。先は御禮旁々近狀申上度如斯に御座候。(三月十五日、校長宛)

山本金之助氏より

時下春暖の御貴會益々御隆盛の段奉慶賀候。陳者本日は遠路にも拘らず林教授香山、小松様方々々病床まで御見舞ひを辱ふし且つ御見舞金に接し誠に恐縮致し居り候。その後の経過も頗る良好にて松葉杖にてホッ／＼歩行も完全には行かぬ不確實乍ら可能に成り喜び居り候。今暫時の辛棒と静養致し居り候へば何卒御安心被下度候。先は亂筆書中を以て厚く御禮申上候。(三月十九日、千曲會後會宛)

慰問袋に對する禮狀

況まで如斯御座候。(二月十五日、千曲會宛)

西川晋氏より

御尊貴禮儀の折柄如何御消光遊ばされ候や御伺ひ申上候。杭州灣敵前上陸以來南京攻取に又杭州攻取に軍〇〇〇隊の一兵として奮闘仕り候。其間危険なる事多々有之候も小生幸に無事且つ元氣に軍務を勤め候へば他事乍ら御放念被下度候。先日は御厚情溢る、銃後の皆様より慰問袋御送付被下有難く去る一月二十九日受納仕り候へば厚く御禮申上候。杭州は秩序殆んど復舊仕り候へ共錢塔江の對岸には敵兵陣地の構架中の模様は御座候。先日は敵機市の五〇〇米上空に來り候へ共吾が宿舎前の高射砲隊の爲め見事射落され壯觀を極め候。現在は〇〇部隊のまゝ市の警備の任に當り候へ共近日中軍の行動開始の由面白き事も有之候と存じ候。先は御禮旁近況迄申上候。(二月五日、校長宛)

松原幸彌太氏より

時下嚴寒の御貴會益々御隆盛の段奉慶賀候。陳者十月御惠送の慰問小包本日辱なく受領仕り候。平素より必要を感じ居り不足品のみに有之候へば洵に重寶にて早速使用仕り感謝罷在候。先づは右御禮まで如斯御座候。(二月十四日、同窓會宛)

新村幸三氏より

嚴寒の候御會益々御隆昌の段奉慶賀候。陳者私出征以來種々御配慮に辱し居候上に今回は御丁寧にも御慰問文と御慰問品に與り有難く厚く御禮申上候。降而私は御陰様にて至極元氣に微忠を盡し居候。南京戰參加後支那第一の蠶桑地湖州の警備に任じ居候間御安心被下度候。常日頃御無沙汰の致居候得共千曲會同人に宜しく御願申上候。先づは不取敢御

松崎武雄氏より

時下寒冷未だ凌ぎ難き折柄校長先生を初め御一同様には益々御清適の段奉慶賀候陳者小生事長らく御無沙汰仕り失禮の段平に御海容被下度候。出征以來既に半歳幸ひに身体壯健聖職に參加致居候間乍他事御放心被下度候。現在は〇〇線沿線の〇〇に待機中に御座候。當山東省は地形概ね内地に在るが如き感じ致し候も大水禍に罹りされし河北省と異り所々に敗殘兵出沒未だ其の跡を絶たず我等〇〇の任務は是等敗殘兵に禍されし時と所とを問はず或は電線或は電柱を切斷されまどるむ暇もなく凍りつく様な星の下に是れが補修或は掃討に努力致し居る状況に候。徐州方面の敵狀既に内亂の兆ありと雖も袋の鼠同様なる彼等の最後の抵抗押して知る可く時機到來せば吾々も〇〇方面に進出の命下ること、楽しみに致し居り候。先般は激勵の御便り拜受御厚禮申上候。吾等同窓生も多數出征せる由に候も未だ拜領の機を得ず残念に存じ居り候。尚これら數ある中には赫赫たる武勳を立て護國の鬼となられし方もある由小生等第〇〇部隊としては誠に御羨ましき次第に候も一面その遺家族を想ひ吾産業界より將來有爲の人材を失へるは誠に哀悼の至りに堪へず候。尙今般不肖小生等に到る迄御熱誠溢れる慰問袋御惠送被下厚く御禮申上候。末筆乍ら校長先生を初め御一同様の御健勝を御祈申上候。(二月十八日、校長宛)

後藤政之氏より

十一月十一日附御送附の千曲會御心盡しの御慰問袋二月七日確かに感泣落手仕候。小生神の加護と御深甚なる御同情とに依り元氣に軍務に精勵致し居り候間乍他事御安心被下度候。先は御禮旁々近況まで如斯御座候。(二月十九日、千曲會宛)

池内眞吾氏より

冬らしい寒さの候となりました折柄御送付に預りました慰問袋と慰問狀去る二月三日確かに落手致しました。なつかしき上田よりの贈物とて誠に心癒しく頂きました。我々應召後の學校の内外の様子殊に銃後における御活躍振りは時折配達さるゝ千曲時報紙上にて拜見致し感激して居ります。其後北支中支を問はず戦況は一段と發展致し目ぼしい地點は殆ど全部我軍の手に歸した模様全く同慶に堪えませぬ。御承知の如く我々は十一月初めに杭州灣に上陸してからは急迫に急追を續け到る所敵の頑強なる抵抗を排して一路南京目指して進みました。蔣介石が最後の堅壁と頼む南京城に一刻も早く肉迫せねばならぬといふ事は將兵一同の夢にも忘れぬ事柄であつたので全軍の士氣は物凄く許りてした。それも其の管敵の首都に肉迫するの一日遅れば一日だけ敵陣地に堅固さを加へて行くのですから。平湖、嘉興、湖州、長興、宜興、溧陽、溧水の順序に着々と日章旗はひるがへり十二月九日には早くも南京の總攻撃は開始せられ十二日には到頭東南角(雨花門)を占領し同時に練々と諸部隊は入城し十三日には完全に城内の殘敵は掃蕩せられて吾軍の手に歸しました。この時の全軍將兵の喜びと感激によるしく御想像下さい。其後湖州にて警備について居りますがあの南京城外に到る所に配置せられた既設トーチカと未完成のトーチカが鐵筋やコンクリートの殘骸も生々しく遺棄せらるゝを見てもし總攻撃が十日おくれれば開始せられた事を考へると其の凄慘極りなき戦場に肌を泡をせしむる感があります。おそろく二百三高地に四敵すべき激戦を交へた事とせう。小生幸にして未だ健在にて背後に皆様の唱へらるゝ萬歳の聲をはつきり感じつゝも勇躍次に來るべき任務につかんとして居ります。取りとめ無き走り書にて失禮乍ら戦況報告を兼ねて御禮申上ます。(二月五日、學校宛)

戰地便り

百瀨 正氏より

時下嚴寒の候益々御清榮の段謹みて御喜び申上げます。扱て過日は御年賀に接し有難く厚く御禮申上げます。小生も學校を卒業して早や四ヶ年となりました。相變らず實子の如く御心配下されおる事

根岸市郎君

(紡二學生)より

増田中尉並に中島伍長の戦死に對し遂に河南の戦線より深く哀悼の意を表し兩氏の冥福を祈る。校友會雜誌國民精神團

柳澤與子治君(使丁)より

暫らく御不信に打過ぎ平に御容捨下さり度候。色々と統後の後援に預り厚く御禮申上候。小兵御禮を以て何の心配も

池田俊郎氏より

昭和十三年も既に二月下旬となり其後益々元氣旺盛にて日夜任務に勵んで居り

市川幸雄氏より

初春の候と相成り候。先生には益々御清榮の事とお察し申上候。私儀御禮に

原利夫氏より

時下春暖の候校長先生には益々御壯健の事と賀し奉ります。陳者小生出發の節は色々と御心配に與りながら御無沙汰

新村幸三氏より

謹賀新年、新春と共に益々御壯健の段奉賀候。借て小生出征以來種々御後援御配慮に與り居り有難く厚く御禮申上候。

山村泰三氏より

小生今度〇〇を受け〇〇仕り無事出征候。上海の平和工作も着々行はれ居る模様にて北四川路附近の占領地には支那人

小林重男氏より

春暖の候先生には益々御勇健の段奉賀候。陳者小生事長々御無沙汰致し居り候。御禮申上候。御禮に無事上海に

御自愛御專一の程切に祈念致して居ります。二月二十四日、校長宛

二月二十一日、校長宛

三月一日、校長宛

三月八日、校長宛

三月二十日、校長宛

計報

高木晋氏戦病死

中支に出征中の高木晋氏(絲正)はコレラに罹り昨年十一月十五日死去せられた旨令弟高木退助氏より通知があつた。謹んで哀悼の意を表する。御遺族は兵庫縣明石郡垂水町西垂水二〇八母堂高木幸子氏、令弟高木退助氏、(外令妹一人)である。左に令弟よりの通信文を掲ぐ。

出征中の高木晋氏亡御通知申上げます(二月二十五日、高木幸子氏宛倉林部隊長殿陣中よりの御便り原文のまゝ)拜復一月十六日附及一月三十日附御手紙正に入手致しました。早速御手紙申し上げべき處一月二十八日以來前進命令にて攻撃討伐掃蕩と寧日なく只今中支派遣軍最前線鳳陽西方十里の地點上遼と河一本へで、敵と相對して居ります。この様な情況の爲め遂々御返事延引致しました。不悪御諒承願ひ上げます。扱て御照會の故高木晋君の儀同君は我部隊の行李に屬し上海上陸以來月浦鎮に迄はよく吳淞間の泥濘と戦ひ

〇隊が十月十八日新木橋の攻撃を命ぜられるや未教育特務兵の身を以て彈丸雨飛の中を猛進糧食彈丸を最前線に搬送して第一線將兵をして憂へなく戦闘せしめ並居る特務兵をして其の剛膽を驚嘆せしめ今も尙兵士の間の語り草となつて居ります。更に轉戦清水嶺最前線へ糧食を運ぶ事數十回誠に良し任務を盡して呉れました。然るに十月二十九日以後〇隊は軍の〇〇翼掩護を命ぜられ西塘灣に位置するや該地は道路悪く野戦倉庫と遠隔し其の搬送に當りてはよく衆人に抜きんで其の功績は拔群なるものがありました。軍人として呼びびては當時のことなど對談して居りましたのに十一月八日無念コレラに罹り〇〇〇野戦病院に收容され其の後の経過を懸念せしに同月十五日午前一時二十分残念ながら死去するに及びました。返すも残念の事で御座います。右が晋君の死去迄の状況で御座います。君亡き後の御家庭特に年老し御母様の事など御推察せば万感交々御慰めの言葉もなき次第であります。軍國の母として晋君の心を確り抱きしめて強く生きて頂きたいので御座います。而し君は我部隊の一員として終始

よくその任務を全し其の武勳は永く我史に輝き後の世迄後輩を感奮せしむるでせう。隊長として晋君生前を忍びて新なる涙にむせびつゝ筆も思ふにまかせず。同君生前の状況を御報知すると共に護國の勇士高木晋特務兵の御母様へ御願ひする次第です。尙公報は一月十日附入晋第五號で提出済みで御座います。追而葬儀は遺骨到着次第當町にて相替ひ申します。

弔慰金募集  
故神原敏男氏 銀十九圓  
故松尾順策氏 銀十四圓  
故手塚達郎氏 銀十四圓  
故富士 銀十四圓  
故高木晋氏 銀十四圓  
右六氏に對し弔慰金を募集致します  
川氏故高木氏は五月末日、故松尾氏故手塚氏故富士氏は六月末日迄に取組め御遺族へ贈呈致したいと思ひます。三三四一番へ夫々振替口座東京四三三の旨御記入の上御拂込下さい。昭和十三年四月 千曲會

故市川清男氏 御遺族よりの禮狀  
父清男告別式の際には遠路慈々御弔問被下りつ御重なる御厚禮を賜はり御厚志の程洵に難有深謝候、右乍辱儀不取敢以書中御禮申上候  
昭和十三年三月十六日 敬具 市川清太

故工藤善助氏 御遺族よりの禮狀  
謹啓 父善助葬儀の際には御弔問を忝し猶御厚禮を賜り候難有謹而御禮申上候  
昭和十三年四月 敬具 小幡那丸

千曲會御中  
外 親戚 一 同 倫  
千曲會御中

故中島健爾氏 御遺族よりの禮狀  
謹啓 故陸軍歩兵中島健爾村葬の際には御弔問を忝し洵に有難く謹みて御禮申上候  
昭和十三年三月二十八日 敬具

非儀委員長 中島忠次  
遺族 祖父 中島三郎  
父 中島一郎

弔慰金報告  
故神原敏男氏弔慰金第三回 朝野千曲會 金貳百圓也  
金貳圓也 朝野外史  
右小計金壹百〇五圓也  
累計金壹百貳拾八圓五拾圓也  
故飯田喜雄氏弔慰金第三回 山寺豊一、諸岡市郎 金壹圓也  
右小計金貳圓也  
累計金七圓也  
故松尾順策氏弔慰金第二回 林貞三、高木三治 金壹圓也  
古東幹太、新村幸三 右小計金六圓也  
累計金拾六圓也  
故村田善男氏弔慰金第三回 宮川繁治、三輪貞徳 金壹圓也  
吉田隆雄 右合計金參圓也  
累計金拾圓也

嗚呼金子博士 中曾根朴水  
昭和聖代の輝く初春昭和の卒業を迎へ以後幾春秋常に健康を誇つてゐた我々同窓會員も遂々明期居士依田學兄を失ひ痛く胸にこたえるものがあつた。Y兄の悲しい思出を時々に讀んでからの時報は月増に小壯有爲の同窓の計報の多くなつてはと思つてゐた矢先金子博士の計報に接し全く啞然たらざるを得なかつた。吾人は博士が直接教壇より教へは受けなかつたが幾多の機會に有益な教へを受けた。先年四月の學會の御り水戸の御令兄をお訪ねの節上野から同じ列車で歸つた事がお訪ねの節際ボツクスが空いてゐたので博士が大いに論じ合つた。ピタミンAやBコンプレックス或はアスコルビン酸の小兒の發育との關係其他の論で花を咲かせた。そして遂々仙臺時代の思出等に若返られた事も昨日の様な氣持が等々現在に在る事も着々進行するしこれ等洋行が出来たら嬉しう話されたい。地方では豫算もなからうが榮條織維と激勵して下さつた。忘れられぬ出でた特徴のある博士が面影も。學究的なスピリットよ。我等が胸裡より離れ得ようぞ在天の御靈に捧ぐる心。我等大いに頑張らう。健康に注意して、お互に之は大切な事だ。太陽の黒點が多くなると人口の増加が減る様だ。人間の精靈が黒點ともなるや否や、太陽の光と生命現象、恐らく關係なきと誰が斷言し得ようぞ。頑張らうお互に。千曲の清流の如く。

恩師金子先生を偲ぶの會  
吾等の敬愛限りない恩師金子先生は忽焉として御長逝せられたと聞くと、轉々人生の無常に驚き且懼れて三度天を仰ぐの感深くし、吾等一同哀悼の念盡きざるものがあります。三月二十四日、この日も空には雨雲低く垂れて吹く風も薄寒く冷たい日でした。日頃先生の聲に接しておられた方々でさへさぞかし先生突然の御逝去に驚かれた事であろう。況や先生から離れてゐた吾々にはそれは唯夢の如く報を手にして先生在りし日の御英姿を拜し殊に御家族と御一緒のお寛真に接してゐると何時しか紙面を埋めてゐる澤山の弔文が他人事のやうに思はれて仕方がありませんでした。それ程先生の御逝去は餘りに思ひがけなく突然であつた爲日頃先生にお慕ひ申してゐながら何もし得なかつた吾々を許して先生に御慰陶を受けた在濱有志一同で集つて一夜在りし日の先生をお偲びし、併せて先生の御冥福を祈り度いと考へまして特に御命日に當る二十四日を選んで會合を催しましたやうな次第であります。それも突然であつたが、大勢集つて戴けて嬉しく思ひました。これも一つに先生の御人徳の致すところの外ならないと今更乍ら尊敬の念を新にすると共に誠に惜しい方を亡くしたことに唯々感慨無量であります。集つた者は互に在りし日の先生をお偲び申し徳を讃え智を惜んで戴く處を知りませんでした。嗚呼い哉、再び得難い先生を失つた悲しみに會する者皆聲なき有様でした。一夜先生を追憶して果る何知らなかつたが心なくも春の夜は短く何時の間にか豫定の時間も過ぎてしまつたので名残惜しくも閉會することにして一同起立し今は亡き先生の御冥福を祈り併せて御遺族の御安泰を願つて暫時黙禱し静かに吾等の會を終りました。このさややかな吾等の會が敬慕限りない先生の御靈に手向ける一縷の香煙にもなれば幸甚の至であります。終りに臨んで本會開催に就き種々御世話された茅野、茂原兩君に感謝する次第であります。尙當日の出席者は次の通りであります。

有賀康人、茅野清三郎、豊澤製漆彦、北原基、萩野喜次、茂原重雄、井野正夫、赤松興一、細井満、關三四郎、勝田清三郎、島田林助、橋本萬、手島孝一(手島記)

神原君を憶ふ 倉澤文夫  
あの丈夫な神原君が突然亡くなるなんて實に想像も及ばなかつた。實に人生は朝露の如しか。神原君の生命は短かつた。併し彼の生前の事業は實に偉大なるものがあつた。人間の偉大さは人格のひらめきであると思ふ。神原君は本當の意味で的人格者であつた。君に接する者は何人たりとも君の人格の光にうたれた。君は別に他人の長所を譽めたり又は他人の氣を挫く等のことは少しもしなかつた。が君と話をすると時は實に氣持が良かった。これは君が我等と接する時に赤心を持つて交際をしておつたのであると思ふ。

朝鮮に君が赴任した當時私は佐久高原に居た。私は學問をもう少しやつてゐる決心をして居たので級友及び社會人との交際を断つて専心學問の道にいそしんだ。謂はゞ當時の私は遊蕩に居たわけであつた。この遊蕩にゐた私を心から慰め且つ私の發展を喜んでくれたのは神原君であつた。蠶專入學當時私は彼を少しも知らなかつた。長野地方及松本地方修學旅行の頃から私は彼を知るやうになつた。いがり頭の彼は明晰なる頭腦の持主であり且つ同級生の意見を纏め乍ら同級生を指導する事の非常な上手である事が譯つて來た。三年の時彼は病身を押し立て應援團長の職務をしてゐた。長い間絶食をしてゐたにも拘らず我等蠶專科學生全部のために應援團旗を振つてゐた彼の姿は實に力強く我が胸裡にうつもつものがある。時々信州の空特に蠶專時代を回顧する積りで蠶專のアルバムを見るが彼の應援團服の姿を見る時は常に兩眼から涙の出るのを禁じ得ない。

神原君は常に生前十九會員の團結を希望してゐたが我等十九會員は今後は今までも同様に更に今まで以上に團結して行くのが故神原君への錢であると思ふ。神原君の靈魂よ！安らかに眠つてくれ。我等蠶專一九會員は常に手をとつて力強く進軍をして居る。最後に神原君の追悼號を編輯下さる在田一九會員の御努力に對して心から感謝致します。

神原君は常に生前十九會員の團結を希望してゐたが我等十九會員は今後は今までも同様に更に今まで以上に團結して行くのが故神原君への錢であると思ふ。神原君の靈魂よ！安らかに眠つてくれ。我等蠶專一九會員は常に手をとつて力強く進軍をして居る。最後に神原君の追悼號を編輯下さる在田一九會員の御努力に對して心から感謝致します。



會員動靜 (四月一日)

- 神津永夫(現職) (勤)本校製絲科(住)小縣郡中田村五加
白倉一男(現職) (勤)本校製絲科(住)上田市踏入
廣川正治(現職) (勤)東京市小石川區大塚窪町二四松風莊
朝倉昇(現職) (勤)東京市杉並區上高井戸五ノ二〇四、財團法人拓殖獎
久保田正樹(現職) (勤)長野市岡田、長野縣製絲試驗場(舊安統支會)
皆川二郎(現職) (勤)松本市、長野縣製絲試驗場松本支場(住)松本市北深志
藤崎 鑽(現職) (勤)同心町(舊龍川支會)
小林 繁(現職) (勤)京畿道桑名郡外、道原製種製造所(住)勤務先官舎
佐藤重太郎(現職) (勤)下伊那郡那珂郡、長野縣製絲試驗場飯田支場(住)飯田市柴町五三七九
山崎 壽(現職) (勤)兵庫縣津名郡中川原、鐘紡淡路原製種製造所(舊福島支會)
熊谷恒次(現職) (勤)上田市、長野縣製絲試驗場上田支場(舊龍川支會)
倉澤二三(現職) (勤)下伊那郡那珂郡、長野縣製絲試驗場飯田支場
田口亮平(現職) (勤)從前通(住)福岡市外箱崎町四御内町一九一三ノ一
若林爲夫(現職) (勤)松本市四ツ谷、農林省製絲試驗場松本支場
市川信一(現職) (勤)京都府綾部町、農林省製絲試驗場綾部支場(住)勤務先官舎(舊安統支會)
池田俊郎(現職) (勤)靜岡縣二俣町、靜岡縣製絲採取所二俣支所(住)勤務先官舎(舊安統支會)
大山 融(現職) (勤)同前
岡島龜治(現職) (勤)滿洲國熊岳城、國立熊岳城農事試驗場萬家嶺支場(住)南滿洲國家嶺
兒玉新一(現職) (勤)鹿兒島縣薩摩郡宮之城町、薩摩製絲宮之城工場(舊安統支會)
玉田城三郎(現職) (勤)鹿兒島縣出水郡出水町、鹿兒島縣出水水高女學校(舊北信支會)
鈴木俊夫(現職) (勤)新潟縣新井町、新潟縣立柏崎高等女學校
渡部 耳(現職) (勤)大阪府北區堂島濱通二丁目、東洋紡績毛課(名簿=渡邊トアル(渡部)誤)
堤 玄(現職) (勤)北支張家口、蒙疆聯合會產業專門委員會(舊滿洲支會)
湯澤 稔(現職) (勤)愛媛縣東宇和郡玉津村、産業組合製絲部(舊近畿支會)
遠藤 榮一(現職) (勤)東京市下谷區上東坂町二九新田ビル、日本燃焼機株式會社東京營業所(舊北信支會)
和田益巳(現職) (勤)姫路市北條、片倉姫路製絲所(住)姫路市二五〇(舊山陽支會)
高橋 滿(現職) (勤)滿洲國熊岳城、國立熊岳城農事試驗場(舊北信支會)
八木 喬(現職) (勤)津市津島高砂、三重縣製絲檢定所(住)津市藤枝町一一一(舊北九州支會)
山田良人(現職) (勤)四日市市外東坂部、三重製絲場(舊東京支會)
古平庄衛(現職) (勤)大分縣西國郡高田町、高田南市場
米澤保正(現職) (勤)從前通(住)上田市横町宗畔寺方、電話八二五
後明武雄(現職) (勤)東京市目黒區下目黒、林業試驗場化學部(舊北九州支會)
福本貞雄(現職) (勤)改姓)井關下改ム
(勤)三重縣三重郡四郷村、望山製絲株式會社(舊近畿支會)
(勤)朝鮮平壤府船橋里所在、鐘紡平壤人絹工場(住)勤務先官舎所
(勤)長崎縣壱岐郡、壱岐要港司令部
岡 亨四郎(現職) (勤)名古屋市中區北切切町、愛知縣毛織物檢査所名古屋支所
大森一男(現職) (勤)下伊那郡那珂郡、長野縣飯田織物指導所
吉田義夫(現職) (勤)姫路市、福島紡績製絲工場(住)姫路市北條八八五、尾上房太郎方
玉井光子(現職) (勤)四日市市外室山、室山製絲株式會社
深町いづみ(現職) (勤)ナシ(住)小縣郡神村山口
小宮山 順(現職) (勤)ナシ(住)小縣郡藤原村上鹽尻
仲藤 潮(現職) (勤)ナシ(住)下伊那郡且開村
藤森ふじ子(現職) (勤)ナシ(住)小縣郡神川村大屋

北澤貴代子(教) (勤)廣島縣三郡十日市町、廣島縣北部乾繭組合更生社
中條八千代(教) (勤)住)勤務先=同シ
(勤)ナシ(住)松本市外岡田村
訂正ノ部
六川忠一郎(教) (勤)東京市城東區大島町八ノ一四五、昭和産業大島工場研
究室、電話本所(73)三一七(會社名變更)
內山鶴雄(教) (勤)昭和二年一月現在于曲會々員名簿中、鶴見トアルハ鶴
宮島 靜三(教) (勤)廣島縣日本大通、神奈川縣藤原縣(四月一日ヨリ職
業離職立ス)
田中 齊(教) (勤)千曲時報三月號ニ御津田トアルハ御津田ノ誤
土生 珀二(教) (勤)千曲時報三月號ニ土生珀二トアルハ土生ノ誤

投稿規定

編輯室より

内容は不問、平易なる學術研究、會
員消息に關する物は特に歡迎。取捨
は當方に一任せられたい。編輯の都
合に依り全部又は一部を來月廻しと
する事がある。
一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致
しません。
一、締切は毎月六日限、特に一月號は一
日發行とする爲め二十日限とする。
一、原稿は開封し三錢切手(第四種百二
十五)迄を貼布して送附し通信文が
あつたら別に葉書等にて通知される
が得策である。
一、必ず原稿紙を使用し明瞭に普通平假
名でお書き下さい。又文句讀點を必
ず施して一字分の間隔を置いて下さ
い。
一、匿名で掲載希望の場合も編輯部丈一
は姓名をお明し下さい。然らざる時
は遺稿作ら掲載を見合せる場合があ
ります。
一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸
以内とし必ず白紙に墨書して下さい。
一、原稿紙は御請求次第送附す。普通の
原稿紙を使用する場合は一行十八字
文書込まれ度い。

△今月も又十六頁と云ふ大冊、十二月二
十頁、二月十八頁、三月二十頁、この處
毎月増大版續きてある。こんな風では毎
月豫算超過で青息吐息だがそれにも増し
て編輯部の困つてゐるのは手間のそれ丈
多くかかる事だ。餘り學校の時間を費し
ては濟まぬと思ひ家へ歸つてから編輯に
従事してゐるが煩ひの夜を毎日それに費
されて熟々閉口仕つてゐる。櫻は丁度滿
開、公園の櫻は開いたらうと思ひ乍ら時
報のお蔭で未だ見物に行けぬ。園子も
喰へないでゐる。編輯子だつて人間です
ぞ。お察し下さい。
△學校の櫻は四月十日頃から咲き始め一
番最後の校門兩側の櫻の四月廿四日頃滿
開迄咲き續けてゐる標である。それ程
學校の櫻は種類が多いのである。時報の
編輯に酷使されてゐる編輯子はこの櫻を
見てせめてもの満足をしてゐる。
△今月も又發行日が六日遅れて何んとも
申譯が無い。編輯子が四月始めの休暇を
利用して一週間許り出張したので頁數増
加が主なる原因である。何卒御寛恕願ひ
度い。
△今年になつてから學校は我國の非常時
に負けず大事件續きてある。曰く金子先
生の御卒去、曰く針塚校長先生の御退職
である。學校も正に非常時である。今年
は實の年。少しあばれたいと思ふ。慈
父の如く慕つてゐた針塚先生が御退職さ
れた事は何んとしても諦らめ切れぬ處で
あるが先生の美しき御心事を思ふ時我等
は涙を呑んで引下らねばならぬ。既に
矢は弦を離れた。何時迄も練々としてゐ
る時ではない。母校將來に向つて雄々し
く立たなければならぬ。それに新校長と
して母校創立以來本校に勤務され學徳高
き井上柳樹先生を迎へたのであるから同
先生を新しく父と仰ぎ協力一致母校の隆
盛を計らねばならぬ。
△針塚先生の思出記事は本月號には取敢
へず阿形先生と浦生先生の御寄稿を得た
のであるが來月號には是非多數登載した

Table with columns: 寸法, 期間, 一月, 六月, 一年. Rows: 1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/16, 1/25.

但し本會員は七掛とす。

昭和三十三年度蠶種案内
交雜種
× 龍華 仙江
× 國蠶 十九號
× 國蠶 一〇七號
× 國蠶 十六號
× 國蠶 十六號
原蠶種
國蠶 十八號(本年度配布優良品)
分離白一〇六號(春期五粒定粒用)
國蠶 一〇六號(春期五粒定粒用)
其他一化二化特選品あり
病蠶無皆
優良品種、適地分場、設備完全
廣島縣御調郡奥村綾目八廿
蠶種業
小川 保
電話市村局一四六番
振替(廣島)二四六番
振替(大阪)三三三番
電報は市村局別便電報料不要

いと思つてゐる。大方の御寄稿を切に望
むて已まない。
△校歌、新作の校友會歌、針塚前校長の
音聲を入れたレコードを一枚二圓で賣出
した。實によく遣入つてゐる。會員諸氏
は是非一枚宛購入せられん事を望む。
△苴氏の「滿洲千曲會記事」も倉澤文夫
氏の「柳原君を憶ふ」も一行二十字詰に
書いたので編輯に手数を要した。
毎月お願ひする事が今後一行十八字に
書かれん事を望む。
△三月發布された斷髮令で新學期から生
徒全部ザンギリ頭となつてしまつた。髪
の毛丈は少くとも新入生と上級生の區
別は無くなつた譯である。見馴れると斷
髮も又いゝものである。
△小生の前任者以來編輯部に席を置かれ
約五ヶ年間に亘り時報編輯に努力せられ
た鷹野誠一氏が今回滿洲國熊岳城農事試
驗場へ榮轉されたので辭職の旨無きに
至つた。此處に多年の御骨折を感謝する
と共に今後の御發展をお祈りするもの
である。然して鷹野氏の後任として征矢克
郎氏をお願ひする事にしたから前任者同
様御引立あらん事を望む。もう一つ今度
新しく湯原謙氏に編輯同人として御骨
折願ふ事にしたから我々同僚御懇情あら
ん事を乞ふ。
千曲時報編輯部
征矢 湯原 香山 清
矢田 原 山 清
克 郎 博 謙 和